

京都市立芸術大学 芸術資源研究センター

第 38 回アーカイブ研究会

アートと学際研究の幸福な関係

－「ヤングムスリムの窓」を中心に



「ヤングムスリムの窓：芸術と学問のクロスワーク」

日時：2023年3月30日（木）14:00-16:00

会場：京都市立芸術大学 芸術資源研究センター

定員：10名（要予約：申込フォーム <https://forms.gle/NvEBwA3cksHYjvmX6>）

講師：澤崎賢一（一般社団法人「暮らしのモニタージュ」代表）

* 研究会記録は YouTube チャンネルより後日配信予定です。

* 下記の作品を上映します。

澤崎賢一『#まなざしのかたち ヤングムスリムの窓：撮られているのは、確かにワタシだが、撮っているワタンはいったい誰だろう？』（30分30秒, 2023）

近年、アーティストが他領域の研究者等と協働して学際的な研究プロジェクトをおこなう事例が目立つようになりました。本学博士課程（構想設計）を修了したアーティスト／映像作家の澤崎賢一さんは、フランスの庭師ジル・クレマンの活動を記録したドキュメンタリー映画『動いている庭』（2016年）以降、研究者や専門家らとの共同研究プロジェクトによる映像作品を続けて制作しており、2018年には映像メディアを活用した学際研究のプラットフォームとして一般社団法人「暮らしのモニタージュ」を創設しています。個のアーティストとしての制作を越えて、領域を横断するコラボレイティブな開かれたアート実践を志向する背景にはどのようなビジョンがあるのでしょうか。澤崎さんの最新の取り組みである「ヤングムスリムの窓：芸術と学問のクロスワーク」（文化人類学者の阿毛香絵さん／京都精華大学特任講師、イスラームとジェンダーを専門とする野中葉さん／慶應義塾大学准教授との共同プロジェクト）など、いくつかの実践についてお話をうかがいます。

<https://project-yme.net/>

プロフィール) 澤崎賢一

1978年生まれ、京都／高知在住。アーティスト／映像作家。一般社団法人「暮らしのモニタージュ」代表理事。京都市立芸術大学 非常勤講師。京都市立芸術大学大学院 博士(美術)。近作に、多重層的ドキュメンタリー映画『#まなざしのかたち』（124分, 2021, 東京ドキュメンタリー映画祭「長編コンペティション部門」選出）、劇場公開映画『動いている庭』（85分, 2016, 第8回恵比寿映像祭プレミア上映）など。

<https://texsite.net/>